

青山学院大学

音楽史B（2006年度後期）（2006.12.12.配布）

今後の授業と補講について

今後、正規の時間に授業が行われるのは、本日=12月12日、12月19日、1月9日の3回です。

これに加え、1回の補講を行います。日程は未確定ですが、当方としては、1月16日（火）に1回分の補講をすることを希望しています。最終的に決定した日程は、学務課から発表されます。

補講期間中の授業は、欠席をしても不利な扱いはしませんし、レポートの内容も、補講に参加しなくてもレポートが書けるような課題を出します。

レポートについて

この科目の評価は、レポートの成績に、出席状況を加味して評価します。したがって、出席状況が芳ばしくないものであっても、レポートが優れていれば、単位が付与されることがあり得ますし、逆に、出席状況がよくても、レポートが貧弱であれば、単位が与えられないこともあり得ます。

以下に示す指示は、厳守してください。以下の指示に従わない場合、大幅に減点することや、レポート未提出として単位を付与しないことがあり得ます。

レポートは

- ・必須レポート
- ・選択レポート
- ・選択レポートに関する感想

から成っています。選択レポートは、課題A～Cのうち1題を選んでください。

レポートの表紙には、学生番号、氏名等とともに、選択レポート課題として選んだA～Cいずれかの記号を明記してください。

必須レポートの分量は概ね800字相当以上、選択レポートの分量は概ね3000字相当以上を期待しています。しかし、内容が充実していれば、これより少ない分量でも構いません。分量の上限は設けません。

さらに、選択レポート本体とは別に、選択レポートに関する感想を、概ね200字～400字程度にまとめてください。これは独立した課題です。

必須レポート、選択レポート、および、選択レポートに関する感想は、ワープロ等を利用して印字するか、インクで清書したものを提出してください。印字する場合は、A4判たて位置の白紙に印字してください。読みやすくなるようレイアウト等に配慮がされていることを前提に、一枚の用紙に印字する字数や、レイアウトは特に制限しません。手書きで清書する場合は、A4判横書きの400字詰原稿用紙を用いてください。

レポート本体と感想は、ステープラー、2穴式フォルダー、綴じ紐、等の適切な方法で「必須レポート→選択レポート→選択レポートに関する感想」の順に綴じて提出してください。

レポートの提出は、1月下旬の指定された日に教務課で受け付けます。日程は、必ず公式の掲示板で確認をして下さい。万一、この日程と異なる日程が適用され、このメモに基づいて行動して不利益を受けたとして、授業担当者（山田）は責任をとれません。

なお、万一の事故に備えて、レポートのコピーを手元に控えておいてください。デジタル・データを保存しておくという形でもかまいません。レポート提出後、万一事故があった場合には、レポートの再提出を求めることがあります。

必須レポート：概ね800字相当以上：

授業を受講し、印象に残った点について感想を述べてください。特に、授業をきっかけに自分で考えた内容や、授業に対して感じた疑問については、できるだけ具体的に述べること。

選択レポート：概ね3000字相当以上：

(A)

ロック音楽の歴史の中では、米国と英国の一方で独自に発達したスタイルが、もう一方に影響を与えて新たなスタイルを生み出すというパターンが何回も繰り返されてきました。米国のロックンロールが英国でビートルズのスタイルを生んだり、米国の（ニューヨーク）パンクが英国のパンクに展開したのは、その代表的な例です。米国と英国のロック音楽の相違点や相互作用関係について、具体的な事例を踏まえながら、自由に論じて下さい。

(B)

1990年代以降におけるロックの歴史について、この講義に続けてさらに2回分の授業を行うとしたら、どのような授業を展開すればよいか。具体的なプレイリスト（映像資料の上映を含む）を作成し、それぞれの楽曲や映像資料を選んだ意図を説明し、授業を通じて何について論じていくべきか、授業実施案を提案して下さい。ただし、実際の授業と同じように時間の制約を考えて、音源の紹介に使える時間は1回の授業あたり45分～60分とします。

当然ながら、実際の授業における講義の流れを踏まえ、必要な参考文献等を参照した上で、現実的な提案をすることが期待されます。また、授業の参考文献としてどのような書籍を受講者に勧めるべきか、簡単なコメント付きの文献リストも示して下さい。

(C)

1960年（昭和35年）以前に生まれた人（複数でもよい）にインタビューして、ポピュラー音楽を中心に、その人がどんな音楽体験をしていたか、できるだけ詳しく聞き取りをし、自分自身の体験と対比しながら、対象者とあなたの世代の違いがはっきりとわかるような形で、報告して下さい。ここでいう音楽体験には、音楽を聞いたり、歌ったり、楽器を演奏したりといったことすべてを含みます。

その際、特に「ロック」については、どのように接する機会があったのか、何を聴いていた（演奏していた）のかなどを、特に詳しく話してもらうこと。

この課題を選んだ場合は、レポートの最初に、対象者の氏名、生年、報告者との関係、その他対象者の簡単なプロフィールと、インタビューを行なっ

た日付、場所（複数回の場合はすべて）を明記してください。また、実際にインタビューをしたか確認するために、担当教員（山田）から連絡をとる可能性があることを対象者に告げ、許可を得た上で、対象者が都合のよい連絡手段（電話番号、メールアドレス、郵便送付先住所、のいずれか一つ以上）もレポートの最初に明記するようにして下さい。（対象者から、山田に連絡先を知らせることについての了解が得られない場合、この課題は選択できません。）

なお、前期に「音楽史A」を受講し、課題（C）でレポートを出した者であっても、対象者が別人であればこの課題を選んでもまったく構いませんし、同一の人物を対象とする場合でも、前期のレポートと内容が重複しないように配慮されていれば問題はありません。ただし、音楽史Aに続いてこの課題を選択する場合は、必ず表紙に「C（音楽史Aとも）」と明記して下さい。

選択レポートに関する感想：概ね200字～400字程度：

課題A～Cの選択理由を説明した上で、レポートを書いた感想を述べてください。

以上、いずれのレポート・感想についても、引用・参考文献（ウェブページを含む）は書誌（URLなど）をきちんと記すこと。

引用範囲や出典を明示せずに他人の文章を切り貼りしてレポートに組み込むのは、盗用であり、剽窃行為です。このような行為が判明した場合は厳格な対応をとります。

なお、この点については、**2003年度の音楽史Bのレポートについて述べた見解**をご参照ください。

<http://camp.ff.tku.ac.jp/YAMADA-KEN/Y-KEN/ex-files/notice03.html#03AB>

レポートに関する質問は、「青山学院 音楽史B」という表題のメールにして、できるだけ早めに yamada@tku.ac.jp まで送って下さい。